



鈴木マサホ

◆ 議員活動・30年の軌跡 ◆



はじめに

市会議員 鈴木 正穂

2017年7月18日、京都市会本会議での議決をへて、京都市会永年在職議員表彰（在職30年）を寺田議長から授与されました。思いがけず遠くまで来たものです。京都市会に送っていただいて8期目30年を迎えました。多くのみなさんにご支援いただき、叱咤激励いただいたおかげです。心より御礼申し上げます。

3度目の挑戦で「市民に開かれた市政！」と、初当選させていただいたのは、昭和62年（1987年）、38歳の時でありました。

今川市政の末期から田辺市政、榑本市政、そして門川市政と平成の時代を駆け抜けてきたことになります。この30年、特に環境、福祉、教育、人権問題などに重きを置いて、古都税、大見総合公園計画、ゴルフ場建設計画、同和行政、景観政策、まちづくり、行財政改革、少子高齢化、岡崎地域の活性化など時々の課題について提言し、また市会改革の推進などにも取り組み、市民の生活の向上ならびに京都市政の発展、左京のまちづくりにいささかでも寄与できていたらと思います。

第81代副議長を拝命したこと、繰り上げ当選をさせていただいたことも忘れることができません。

これから、超高齢化社会を迎え、また我ら団塊の世代がどう立ち向かうのか、未来の京都をどうするのか、課題は山積しています。

初心を忘れることなく、生涯現役！の気概を持って経験を生かして、これからも京都市政の発展と市民生活の向上、左京のまちづくりに向けて頑張る所存であります。

多くの人に出会い、多くのことを学びました。これからもどうぞお付き合いのほどよろしく願いいたします。

なおこの冊子は、2002年（平成14年）に作成した「15年の軌跡」に加えて、以降は、HP「ひとくち日記」に毎年12月に書いている「回顧」を連ねて「30年の軌跡」としたものです。

ともに同時代を過ごした皆さんとその時代を思い出していただきながらご笑覧いただければ幸甚です。

2017年9月 吉日

プロローグ

30歳の挑戦、1661票

1979年、30歳の時に市民運動の仲間を支えられて、生まれ育ったわがまちで京都市議会議員選挙に初挑戦。髭を生やして自転車に乗って、1661票。さわやかに散る。ドキュメント「猫もネズミも怒ってる」は、今読んでも色褪せてはいない。わが初心はここにあり。

その後「月刊地域闘争」の編集などして、83年2度目の挑戦もスタッフの中で色々あって、2520票、惨敗。そして中央市場「山本水産」で働き、大丸百貨店の配達もし、今は亡き太田光子市議引退のあと社会党の推薦を得て、社会党おたかさんブームのなかで、3度目の挑戦。

1987年（昭和62年）

市民パワーを市政に！清水府議会議員とダブル当選

4月、5097票！3度目の挑戦で初当選。涙が出た。清水達也氏も府議会議員にダブル当選！鈴木マサホ・清水達也共同事務所として「市民センター・左京」を設立。京都の様々な市民運動と社会党が連携して、ニュース「トライアングル」などを発行、「市民センター・左京」は日々活気に溢れた。君が代訴訟も始まった。

日本社会党京都市議会議員団は10人。財政消防委員会副委員長・公害対策委員会委員に。

京都市政は今川市政の末期で、古都税問題が日々論議され、秋には古都税条例が廃止された。市会の慣習を何も知らない1年生議員として、各委員会で密室市政と古都税問題、住民基本台帳電算化問題やインフルエンザ予防接種問題、君が代・元号問題、北山残土投棄計画―大見総合公園計画について各理事者とかなり激しい論議をした。

11月に本会議で初めての登壇。もちろん「大見総合公園計画について」。緊張しながら、北山残土投棄計画の諸問題を徹底的に追及した。当時の議員団の細川団長から「社会党議員団を代表して」と言わないでほしいと言われたのが記憶に残る。

<京都市>一般会計予算は4698億円。第1回世界歴史都市会議が開催、京阪本線の三条・東福寺間の地下化が開通、空き缶再資源化施設「横大路学園」開設。

<国内>地価が高騰し、地上げがいたるところで進み、まさに世はバブル経済。国鉄の分割、民営化が始まり、労働運動において連合も発足。世界柔道選手権で小川直也が優勝。

<国外>レーガン大統領とゴルバチョフ書記長が中距離核戦力撤廃条約に調印。大韓航空機ビルマ上空で墜落事件。

1988年（昭和63年）

反原発と景観論争

反原発のニューウエーブの市民運動が盛んになり、伊方原発出力調整実験反対で四国へも行った。雑誌「現代人」や「京都 TOMORROW」にはよく書かしてもらった。

委員会は、財務消防委員会副委員長と同和問題解決推進委員会委員に。

2回目の登壇は、チェルノブイリ原発事故を踏まえて、原子力防災対策や名神高速道路を走る核燃料輸送対策や放射能汚染輸入食品問題などを提起し、また山中越での野焼きによる不気味な北白川柿ノ葉落葉事件や、プライバシー保護と母子父子家庭実態調査と母子父子家庭対策などについてと、大見総合公園計画について質疑をした。

市会では、小規模校問題が論議され始め、高さ制限が緩和されることになる総合設計制度の導入をめぐる景観論争が始まった。また7月市会では、市バス・地下鉄料金改定問題が論議され市バスが180円、地下鉄は160円になった。

<京都市>障害者スポーツセンター開所、二条駅周辺新都市拠点整備計画の発表、地下鉄烏丸線京都・竹田間開通、京都国体や全国身体障害者スポーツ大会。

<国内>リクルート事件発覚、エイズ法案や消費税など税制関連法案が可決。中曽根内閣から竹下内閣に。秋には、昭和天皇が病に伏し下血。自粛問題と戦争責任問題が話題になった。前田明率いるUWF誕生。

<国外>イラン・イラク戦争終結、ソウルオリンピック、レーガン大統領からブッシュ大統領に。

1989年（平成元年）

平成の時代の始まり、田邊市政に

1月に昭和天皇が没し、昭和の時代が終わる。平成の

時代がスタート。大文字山ゴルフ場建設計画や鴨川ダム建設問題など環境問題や参議院選挙と市長選挙で右往左往した。環境保全と開発が市長選挙の争点になり、京都市と緑を守る会も結成された。1981年から始めた「核と戦争はごめんだ！市民定例デモ」は100回を越えた。文教観光委員会副委員長・公害対策委員会委員に。ワープロを購入した。

3回目の本会議の登壇は、8年間の今川市政その功罪、北部周辺整備事業大見総合公園計画、大文字山ゴルフ場建設計画、国際交流会館と消費生活センターの運営、母子家庭児童の医療費支給制度の周知などについて質問。

そして夏は、まず7月に参議院選挙で、笹野貞子さんが大勝利。社会党が大躍進し「山が動き」与野党逆転。続いて8月は市長選挙。田邊朋之、木村万平、城守昌二、中野進さんらが立候補。ほくは中野進さんを応援、田邊朋之さんが321票の僅差で木村万平さんに勝利。

11月市会で4回目の登壇。市民に開かれた市政を！と田邊新市長に問い、開かれた市政への具体的プラン、機構改革、市会の情報公開、インフルエンザ予防接種問題、アトピー対策などについて質問をし、大見総合公園計画を白紙にと訴えた。

<京都市>国際交流会館や琵琶湖疏水記念館がオープン、地下鉄東西線の起工式、当初の総事業費2450億円。JR山陰線複線化、連合京都発足、京阪鴨東線三条・出町柳間が開通し左京区も随分便利になった。国連軍縮会議が開催。

<国内>消費税導入、リクルート事件で6月竹下内閣退陣、宇野内閣発足、ところが女性問題ですぐに退陣、海部内閣に。カラオケボックス登場、美空ひばり死去。

<国外>米ソの首脳会談冷戦に終止符、中国天安門事件。東ヨーロッパの共産党政権相次いで倒れ、東ヨーロッパの民主化。ベルリンの壁、崩壊。

1990年(平成2年)

社会党から除名、そして復党

「市民センター・左京」が中心となって、衆議院選挙で複数候補擁立運動を展開、2月社会党議員団を離脱し、社会党から除名になり髭を剃る。10ヶ月間、市会事務局に机を置いてもらい一人で議会活動。議会の動きな

ど情報も入ってこないし、無所属での悲哀を味わう。12月に社会党議員団に復帰。文教観光委員会委員・市民スポーツ振興対策委員会委員。

6月には、無所属ながら5回目の登壇。大見総合公園計画の見直し、深泥が池の自然保全、左京区北部の「ふるさと森都市」地域づくり、在日外国人の人権と民族差別をなくす教育、世界人権問題研究センターの設立について質疑をし、職業選択の自由・国籍条項をなくせと論戦を挑んだ。

<京都市>一条山開発許可問題、大文字山ゴルフ場建設計画問題、マンション建設問題、JR京都駅改築問題、京都ホテル高層化問題、比叡平違法開発事件など開発問題と景観論争が盛ん。また議員定数を是正、上京、東山1名減、西京、伏見区1名増に。また市会決議「同和行政の見直しを求める決議」。京都高速道路計画の概要が発表、鴨川東岸道路と地下鉄烏丸線北大路・北山間が開通。水道料金の改定問題もあった。

<日本>バブル経済崩壊、日米構造協議、日朝国交正常化共同宣言、湾岸危機で国連平和協力法案が議論。

<世界>東西ドイツの統一、イラクがクウェートを侵攻。

1991年(平成3年)

2期目の当選、市民に開かれた市政に第一歩

1期目4年間の本会議質問や雑文、日誌をまとめた市民派議員レポート「なんだ坂こんな坂」出版。

4月、社会党への逆風の中で、5115票で2期目の当選。清水府会議員は落選、「市民センター・左京」を解散し、百万遍の知恩寺横の小さなビルに事務所を移転。財政総務委員会委員・健康都市づくり特別委員会副委員長に。第3回世界歴史都市会議がスペインはバルセロナで開催されたので参加。ブリュッセル、ケルン、ベルリン、パリなど初めて一人で海外視察。

6月に6回目の登壇。情報公開(公文書の公開に関する)条例の制定を巡って質疑に立った。条例制定までの経過、市民の知る権利、各種審議会の公開、プライバシー保護、教育委員会の情報公開、今後の課題などについて質疑をし、議会も情報公開をしようと訴えた。

<京都市>田邊市長のもと「京都市健康都市構想」が策定。保全・再生・創造の「まちづくり審議会」の答申。

京都市公文書公開条例の制定や消費税転嫁条例で議論。市原に東北部クリーンセンターの建設計画の発表、地元左京区でもあるので右往左往。また比叡平西側の違法開発で行政代執行、ポンポン山ゴルフ場計画問題やJR京都駅と京都ホテルの改築問題や地下鉄東西線と5大プロジェクトが話題に。

＜国内＞宮沢内閣が発足、国際貢献・PKO（国連平和維持活動）議論、雲仙・普賢岳で火砕流が発生。千代の富士引退。

＜国外＞湾岸戦争勃発、南アフリカ・アパルトヘイト終結宣言、ソ連邦崩壊、ロシア共和国大統領にエリツイン氏、ユーゴスラビア崩壊・民族紛争が激化。

1992(平成4年)

新基本計画—京都の未来を考える

財政総務委員会委員、環境保全対策特別委員と新京都市基本計画審議会の委員にもなり、学識経験者など多くの市民と京都の未来を語った。5月の連休を利用して山本健治元大阪府議ら日独平和フォーラムで訪独。本会議では予算市会と決算市会で2度登壇した。

7回目の登壇は、予算市会で92年度予算について田邊市長に決意を聞いた。

田邊市長の原点、バブル経済の崩壊、健康都市構想、市役所のあり方、高齢化社会対策とゴールドプラン、地球環境問題、熱帯材の使用削減、原発事故の防災対策、核燃料輸送、ごみ減量と新清掃工場、大見総合公園計画と北山の自然を守る対策、ゴルフ場建設計画、そして在日韓国・朝鮮人児童の民族教育の保障、学習困難児童への対策、留学生への援助、外国人市民施策、景観問題とグランドビジョンなど多岐にわたった質問をし、委員会にモニターテレビをと訴えた。

11月市会で8回目の登壇。新京都市基本計画について質疑をし、世界人権問題研究センターの設立、在日外国人への施策の充実、環境問題、空き缶リサイクル、横大路学園、ごみ減量、北山の八丁平の保全対策や地方自治政府のあり方、そして君が代訴訟の判決の感想と歌わない自由を、とこれまた諸課題について提言をした。

＜京都市＞市役所完全週休2日制がスタート、吉田山のマンション計画地の買収、山陰線複線化に伴う小倉山

の残土処理問題、京都市高齢社会対策計画の策定、ポンポン山ゴルフ場計画地の買収問題、「花背山の家」完成。

＜国内＞PKO協力法案強行採決で可決、佐川急便事件、参議院選挙、連合候補は完敗、細川日本新党4議席獲得、金丸自民党副総裁辞任、基準地価の全国平均が初めて下落、長島茂雄がふたたび巨人監督に。

＜世界＞ボスニア紛争勃発、米大統領にクリントン、リオデジャネイロで地球サミット、バルセロナオリンピック。

1993(平成5年)

自民党政権の崩壊、細川政権誕生

細川政権が誕生、日本の政治は混沌とし政界再編の嵐が吹き始めた。田邊市長の再選を控えて、共産党が主導する国民健康保険料の引き下げを求める直接請求運動が起こり6月に臨時市会が開催された。しかし真夏の市長選挙で田邊市長再選。また全国在日朝鮮人教育研究集会(全朝教)京都大会が開催され、実行委員の一人として走り回った。交通水道委員会委員、同和問題解決推進特別委員会委員長に。

9回目の登壇は3月の本会議で個人情報保護条例を巡って賛成討論に立った。

「恐るべき情報管理社会—プライバシー保護のために」と題して、ドイツの視察の経験を踏まえて、旧東ドイツの秘密警察跡で考えたことや、大衆化したコンピュータ社会、市民の知る権利-情報公開、自己情報のコントロール、出生届から死亡届まで、情報管理ファシズムの危険性を訴えた。

＜京都＞「新京都市基本計画—平成の京づくり—文化首都の中核を目指して」策定。個人情報保護条例の制定、ヘルスピア21開館、高校ラグビーで伏見工2度目の優勝、市長への手紙制度がスタート、Jリーグ開幕。

＜国内＞細川連立政権の誕生、新生党(羽田代表)、新党さきがけ(武村代表)など45年ぶりの連立政権が成立、55年体制の崩壊、衆議院議長に土井たか子さんが、社会党委員長に村山富市氏、ゼネコン汚職問題で本間宮城県知事など逮捕、冷害で米不足、タイ米の輸入、曙が横綱に。

＜国外＞イスラエルとPLO平和協定、EU(ヨーロッパ)

パ連合)発足、映画「シンドラーのリスト」上映。

1994年(平成6年)

建都1200年、地下鉄工事費の暴騰問題で議論白熱

われらが日本社会党の村山富市委員長が首相になってびっくりした！建都1200年記念の様々なイベントが華やかにされたが、地下鉄東西線の工事費が当初の約2倍、完成が97年秋に延びることが判明。7月に臨時市会が開催され、交通水道委員として大議論。同和問題解決推進特別委員会委員長として同和問題懇談会委員にもなる。京都市国際交流協会発行の「京都に生きる在日韓国・朝鮮人」の編集委員を務め、「核と戦争はごめんだ！市民定例デモ150回記念一核の時代と私たちの歩み-13年間の軌跡」も発行した。

5月市会で10回目の登壇。「部落問題の解決のために」ということで、30分間をすべて使って同和行政について、総括と今後のあり方について提起した。この原稿を書くのは正直たいへんであった。その質問の流れは、私と部落問題、自分に与えられた宿題、オールロマンス事件、同和对策審議会答申以降、同和行政の総括を、映画「君の心にパス」、市長の説得力ある答弁を、まちづくりを住民の手で、環境は改善されたが、同和教育の成果と課題、同和保育の成果と課題、職業安定対策がもたらしたものの、隣保館事業の課題、市民啓発など同和行政の見直しを問い、同和問題懇談会のこと、行政の停滞、部落解放に向けて「共同の営み」をと訴え、同和行政について真っ向から演説をした。

＜京都市＞市税収入、前年比を下回る。琵琶湖でマイナス123センチの渇水、女性総合センター「ウイングス京都」オープン、「京都市高齢者保健福祉計画」の策定、「一般廃棄物(ごみ)処理基本計画」、KBS近畿放送問題

＜国内＞細川連立内閣から羽田内閣、そして自民・社会・さきがけの村山連立内閣が発足、松本サリン事件、高層化京都ホテルオープン、関西国際空港開港、新進党結成、党首に小沢一郎氏、大江健三郎氏にノーベル文学賞、貴乃花横綱に。

＜国外＞南アフリカ共和国マンデラ大統領に、金日成主席死去、北朝鮮に核疑惑。

1995年(平成7年)

阪神大震災。3期目の当選、同志社大学総合政策科学研究科に入学

1月、阪神・淡路大震災、またオウム真理教による地下鉄サリン事件など日本の安全神話が崩壊する春、3821票、最下位当選で3期目の当選、同志社大学大学院総合政策科学研究科に社会人入学。週3回ほど今出川キャンパスに通う。建設委員会委員・同和問題解決推進特別委員会副委員長。上下水道料金の改定を巡って深夜議会もあった。12月にはサマール友好協会のメンバーとフィリピンはサマール島カルバヨグ市へ。

選挙直前の予算市会で11回目の登壇。2期8年の間に自分の提起してきた問題を総括と検証、そして自治体のあり方について提案をした。機構改革と財政改革、新基本計画の実現、高齢者問題、医療・保健・福祉制度の三位一体化、目指せ環境自治体！熱帯材の使用削減、鴨川の清流保全、大見総合公園計画については凍結、謝罪そして地元住民との話し合いをと訴え、定住外国人市民施策確立と「内なる国際化」のために総合窓口設置を求め、世界人権問題研究センターへの期待、静原に簡易水道の設置や市民しんぶん区版の発行を提起し、戦後50年に思いを寄せて定例デモのことも語った。

<京都市>キタオオジタウンオープン、大見総合公園計画凍結、自然風景保全条例を可決、不況対策、「ごみ減量・リサイクル行動計画」策定、京都市産業振興ビジョン策定、近畿放送が京都放送と社名を変えて再出発、「平成の京づくり推進のための市政改革大綱」策定、京都コンサートホール開館

<日本>地方分権推進法成立、高速増殖炉「もんじゅ」放射能漏れの事故、青島幸男、横山ノックが知事に、米大リーグ野茂英雄デビュー、参議院選挙、笹野貞子再選、新進党躍進、ウインドウズ95日本上陸

<世界>中国・フランス核実験、米国とベトナム国交回復

1996年(平成8年)

梶本市政の始まり、監査委員に

1月村山首相退陣、橋本内閣に。田邊朋之市長辞職、激寒の2月、梶本市長誕生、日本社会党が社会民主党に

名称変更。建設委員会委員・同和問題解決推進特別委員会副委員長、そして監査委員に。監査委員として、行政のあり方を別の角度から勉強できた。後に「これからの評価システム」(1999年 中央経済社刊)に、監査制度のあり方を中心に体験的政策評価論として文章を書いた。また歩きつづけて15年、「核と戦争はごめんだ！市民定例デモ」最終回。市会海外視察団でメキシコの姉妹都市グアダハラハラなど中南米を訪問。7月に臨時市会が開かれて榊本市長の肉付け予算が審議。夏に仲尾宏氏らと釜山・ソウル3泊4日の旅、秋には藤田敬一氏と同和行政をめぐって公開対談。

5月市会で12回目の登壇。「同和行政と制度疲労—自縛からの脱却を—自立と自治をキーワードに」ということで、ふたたび同和行政のあり方について問題提起を行った。

以下は、その小見出しである。同和問題の解決に向けて、冷静に解決策の知恵を、新たな段階にある同和行政、京都市行政の停滞と制度疲労、自縛からの脱却を—行政依存と行政責任、キーワードは自立と自治、変わるべき隣保館のあり方、同和教育における公教育の限界、公務員雇用の功罪、見直すべき選考採用制度、行政・市民・運動団体も不断の努力を、同和問題解決のために新たな決意と人権文化の構築に向けて、根源的な政策提言を行った。

<京都市>「もっと元気に京都アクションプラン」発表、市バス運賃220円に。缶・ビン・ペットボトルの分別収集スタート、京都市同和問題懇談会が意見具申

<国内>薬害エイズ問題で菅直人厚生大臣が国の責任を認め謝罪、病原性大腸菌O-157騒動、小選挙区での最初の衆議院選挙、社民党惨敗、自民党復調、自民党単独橋本内閣、第1次民主党結成、プロ野球オリックス日本一に、川崎市で国籍条項撤廃。

<国外>アトランタオリンピック、ペルーのリマの日本大使公邸にゲリラ籠城

1997年(平成9年)

ゆるる社民党、市会の改革に向けて

中央における政界再編の波が京都の社民党にも波及し、民主リベラルの道を歩むべき第1次民主党の立ち上げに伴い、議員団においても社民党に残るもの民主党に入党するものと(後に自民党に行った議員もいる)、会

派内では微妙な情勢。議員団の名称を社民党京都市会議員団から「京都市民クラブ」に名称変更。財政総務委員会副委員長、防災・市庁舎建設対策特別委員会委員になり新庁舎整備懇談会委員として学識経験者らと議論に加わった。また初めて市会運営委員会の委員になり意見書の調整や市会運営と市会改革に参画できるようになった。第1弾として「京都市会だより」を創刊できた。「国籍条項のシンポジウム」も開催した。

本会議での13回目の登壇は、2月予算市会で「梶本市長の基本的な考え方を問う」として、財政状況、アカウントビリティとデイスクロージャーに触れ、同和行政に関する市会決議や京都市同和问题懇談会の意見具申の意味を問い、啐啄—今が機会だと訴え、外国人市民施策については、国籍条項撤廃し世界文化自由都市宣言の理念を実現せよと提起し、市民参加で地球温暖化防止会議の成功を、環境基本条例への評価、高齢者福祉—シルバーシッター「野の花」の試み、静原に地域水道を、自治体は幸福会社と政策提起をした。

また秋の決算市会で14回目の登壇。わずか15分ぐらいだったが、「国際化推進大綱と国籍条項—職業選択の自由—なぜ外国籍市民が地方公務員になったらあかんの」と題して、国際化推進大綱の評価と国籍条項の撤廃を求めたのである。

<京都市>新京都駅完成、地下鉄国際会館まで延伸、東西線開通、京都市国際化推進大綱策定、環境基本条例の制定、地球温暖化防止京都会議COP3開催、美化推進条例、大型ゴミが有料化、都市建設局幹部職員の汚職問題、ゼスト御池開業、鴨川歩道橋・ポンテザール問題、バス路線の再編、(旧)民主党京都発足

<国内>消費税、3%から5%に。介護保険法が成立。山一証券が廃業、金融不安広がる。神戸で連続児童殺傷事件

<世界>香港が中国に返還、ダイアナ元妃パリで激突死。

1998年(平成10年)

最適都市を目指して、修士論文「京都自治体論」を出版

97年の秋頃から書き始めた大学院の修士論文「京都自治体論・序論-最適都市をめざして—21世紀京都グランドビジョンへの提言」を徹夜続きで正月明けに書き上げ、2月の予算市会で15回目の登壇をして、早速そ

の成果を披瀝させてもらった。

題して「21世紀の京都—自治体のあり方を考える」。最初に太田光子元市議のご冥福を祈り、京都市の財政状況についての考察、歳入の構造—少ない自主財源、歳出の構造—投資的経費も少なく弾力性が乏しい、今後も厳しい市税収入、公共投資に市民の合意を、三都市の政策決定・実施過程比較、新世紀に向けた市政改革行動計画、大区役所制と分区・合区問題、高齢化社会対策、公的介護保険制度、監査制度のあり方、行政監査と不法投棄、外部監査制度の導入、地球温暖化防止会議の成果、環境自治体づくり、環境局が発足、まちの美化推進、精神保健福祉を問う、こころの健康増進センターの役割、社会参加できる地域づくりを、人権文化の構築に向けて—同和行政の改革、自治100周年に向けて、とこれまた多岐にわたって政策提言をした。

夏の終わり、修士論文と大学院でのレポートをまとめて「京都自治体論」としてブックレットを出版した。また介護保険制度の導入をひかえて、厚生委員会委員・介護保険制度特別委員会委員副委員長に。秋には、「介護保険制度のシンポジウム」を企画した。また市会運営委員会委員・理事として、市会の改革に向けて提言するとともに、ポーランドのクラコフ市での世界歴史都市会議にも参加、アウシュビッツ収容所跡も訪問、衝撃を受けた。なお長年お世話になった社民党を離党、新民主党に入党した。

＜京都＞鴨川歩道橋計画白紙撤回、ラクト山科開業、新地域防災計画の策定、情報網洛中洛外・市の施設で運用開始。京都市自治100周年、京都市環境影響評価条例の制定、新庁舎整備懇談会から報告書。

＜国内＞日本列島総不況、橋本政権から小淵政権に。新進党分裂、参議院選挙で福山哲郎議員誕生、NPO法成立、新民主党発足、若貴兄弟横綱

＜国外＞、金大中氏が韓国大統領に、ワールドカップフランス大会、日本チームは3戦全敗。

1999年(平成11年)

4期目の当選、民主・都みらい京都市会議員団を結成

選挙の春、9人定数に13人の激戦を4313票、最下位で4期目の当選。旧社会党系、旧民社党系と新人議員ら13人で「民主・都みらい京都市会議員団」を結成。建

設消防委員会委員長・環境保全対策特別委員会委員・市会運営委員会委員に。市会運営委員会では、市会の情報公開に向けての取り組みが進み始め、予算決算委員会はモニターテレビで傍聴できるようになった。

3期目最後の2月市会で16回目の登壇。財政健全化の処方箋、高齢化社会への対応、少子化対策、透明な行政を、政策評価の手法、環境問題としての緑の保全、半鐘山の開発緑地保全を、人権文化の構築、鞍馬・貴船に地域水道を、と提言をした。

選挙後の5月市会では、民主・都みらい議員団、最初の代表質問者として17回目の登壇。民主党の誕生に触れた後、仏教会との和解、中央市場、外国籍市民施策、議会の情報公開、公共事業再評価システムなど懸案の課題について市長に答弁を求めた。

<京都>京都新世紀に向けた市政改革行動計画、「くらしに安らぎ、まちに華やぎ」京都市基本構想を議決、「新京都市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画—京めぐるプラン」策定、ダイオキシン類対策、子育て支援総合センターこどもみらい館開館、外部監査制度実施、静原地域水道供用開始、日野小学校で男子児童刺殺される。

<国内>東京都知事に石原慎太郎、自民・自由党連立にさらに公明党が加わった小渕内閣、ガイドライン法、国歌・国旗法、通信傍受法など成立。東海村の臨界事故、深刻な不況、地域振興券が発行、コンピュータ西暦2000年問題、情報公開法成立、完全失業率5%突破、

<国外>コゾボ紛争、トルコ、台湾で大地震

2000年（平成12年）

梶本市政2期目のスタート、京都市会情報公開条例制定

ミレニアムの幕開け、コンピュータ西暦2000年問題は大混乱なし。安らぎと華やぎの京都市基本計画の策定、2月市長選挙、梶本市長再選、2期目のスタート。「民主・都みらい議員団ニュース」発行をはじめ。介護保険制度が実施。交通水道委員会委員、介護保険制度特別委員会委員、市会運営委員会委員副委員長・理事に。

情報公開の検討小委員会の委員として、最後の調整で神経を使うが、大きな前進。5月市会で議員提出議案として京都市会情報公開条例を制定。理事としてフランスのモンペリエでの世界歴史都市会議に参加。大学生の議

員インターンシップ（研修生）を受け入れ始める。

また交通水道委員、公営企業予算委員会の委員として、秋には上下水道料金の改定を巡って大論議。9月市会冒頭の本会議で18回目の登壇。上下水道料金改定に関する議案について、グラフを使って質疑に立ち、我が家の水道料金を例にして、なぜ今料金の改定なのかと迫り、上下水道事業のあり方や企業債の残高の問題など、公営企業のあり方を根幹から問い答弁を求めた。その後委員会で審議をしたのち、与党会派で修正案を提案、原稿を徹夜で書き上げて賛成討論を会期末の本会議で与党会派を代表して演説したのが19回目の登壇になった。

<京都>一般会計予算は7180億円、42年ぶりにマイナス。キャンパスプラザ京都オープン、東部山間埋立地供用開始、まちづくり条例の制定、京都新世紀市政改革大綱の策定、上下水道料金の改定、衆議院選挙、前原誠司氏、2区で勝利。

<国内>有珠山、三宅島噴火。小渕首相入院、森首相に。沖縄サミット、IT革命、『神の国発言』。自公保連立内閣、衆議院選挙、大阪府に女性知事雪印の食中毒事件、長野知事に田中康夫氏、自民党、加藤の乱。

<国外>韓国・北朝鮮の南北首脳会談、シドニーオリンピック、アメリカ大統領選挙混乱、ブッシュ氏が就任。

2001年（平成13年）

市民に開かれた市会へ、市会とわがホームページ開設

2000年12月31日、21世紀京都幕開けイベントとして大文字の送り火が灯り、市役所前ではカウントダウン、21世紀の始まり。市会運営委員会副委員長・理事の要職とともに厚生委員会委員、そして議員定数特別委員会委員として分区合区問題とともに一票の格差の是正を図るための議論を始める。京都市会情報公開条例の施行。市会ホームページも開設され、点字による請願、介助犬同伴で市会本会議の傍聴が可能になるなど、市民に開かれた市会へ前進。わがホームページもリニューアルし、毎日の活動を「ひとくち日誌」として書き込み始める。8月市会の北米海外視察団でシカゴ、ボストン、ワシントン、ニューヨークへ。2週間後、世界貿易センターが同時テロで崩壊。

11月市会で20回目の登壇。財政非常事態宣言と市政

改革、自治体会計の問題点、監査委員の意見と財政指数、自治体経営と財政再建団体、人件費の削減、公営企業の繰り出し金、イベントの見直し、公共事業の凍結、ペイオフ解禁対策、IT時代の自治体づくり、インターネットと高度情報化推進のための行動計画などについて政策提言を行い、同時テロについて言及した。

＜京都市＞財政非常事態宣言、東北部クリーンセンターの完成。

＜国内＞池田小学校児童殺傷事件、森首相から小泉内閣に。参議院選挙、松井こうじ当選。テロ対策特別措置法成立、BSE（狂牛病）騒動。

＜国外＞米国で同時テロ、米軍によるアフガン空爆、インド洋に自衛艦。

2002年（平成14年）

議員定数を削減、議員活動15年

懸案の議員定数是正問題に決着をつけることができた。特別委員会の委員として、また市会運営委員会副委員長 議員団の理事として、2月から3月にかけて議員団での議論も白熱し、また他党派との調整でも神経を使いストレスがたまった。しかし党利党略ではなく一票の格差と人口と議員数の逆転現象の解消と議会のスリム化のための定数の削減をすることを目標に1増4減で決着がついた。また特別委員会の設置を主張したが、常任委員会の活性化を図ることを条件に特別委員会の廃止に同意。いずれにせよ、開かれた市会をめざしてさらなる改革に取り組みを進めている。この4期目最後の1年は、厚生委員会の委員として、福祉・保健・環境問題について議論を重ねることになる。

なお99年から01年5月までの議員団の本会議質問集「京都から、KYOTOの未来」を編集者として発行し、議員団ニュースは22号になった。6月には澤井勝奈良女子大学教授を講師に「地方自治講座」を開講。また全国市町村議長会から議員在職15年表彰を受けた。

そして、7月24日、多くの諸先輩の方に呼びかけ人になっていただいて「鈴木マサホ・議員活動15周年記念の集い」を開催することができた。感慨無量。

.....
*ここまでの文章は「鈴木マサホ議員活動15年の軌跡」として記念の集いに配布したブックレットに書いたものです

*ここからは、「ひとくち日記」に毎年12月末に「回顧」として書いた文章を少し手直したものです。

.....

2003年（平成15年）

5期目の当選！民主・都みらい議員団団長に

1月に熊野神社横に選挙事務所を構えて、2月定例会と選挙の準備で走り回り、4月の統一自治体選挙で5期目の当選。5384票で、9人中の6位当選。今まで選挙で最高の得票！

5月市会で代表質問、そして議員団団長に就任。6月には百万遍から聖護院に事務所の引越し。9月市会が終わったら地元吉田のお祭り、それからヨーロッパはスウェーデンはヨーテボリとストックホルム、チェコは姉妹都市プラハ、ポーランドはワルシャワ、そしてフランスはパリに市会の海外行政視察。

帰国直後から衆議院選挙に突入。前原誠司候補は圧勝し、民主党大躍進！休む暇なく11月市会定例会と来春の市長選挙を巡っての各種の調整で四苦八苦。走り続けた1年。

2004年（平成16年）

地球温暖化対策条例制定される

イラク戦争に、台風、地震、そして大津波。天変地異の2004年だった。わが京都と左京区は、夏の局地的集中豪雨があったが、大きな災害もなく無事に過ぎた。

アテネオリンピックやイチロー選手の大活躍など明るい話題もあったが、ぼくは2月の市長選挙に始まり、7月の参議院選挙まで走り続けた。その間、5月には某議員が消息不明になり議員団と民主党から除籍、辞職勧告決議、9月に本人から辞職願いが出て受理という京都市会では前代未聞のことも起こった。また7月末には、西京区選出の天方議員が逝去。12人の議員団が10人になって寂しくなった。

議会では、4月からは交通水道委員会に属し、エムケイの市バス路線への参入問題が大きな話題になったが、9月に今期2度目の代表質疑に立ち、公共交通先進都市を目指して、交通局のバス事業を中心に、環境やバリアフリー、福祉、観光などの視点で交通政策について質問をした。京都市政にとっては、地下鉄東西線の六地藏ま

で延伸、11月市会での地球温暖化対策条例の制定は意義あることでした。

2005年（平成17年）

小泉劇場と民主党前原代表の誕生

この1年は小泉劇場と前原民主党代表の誕生に尽きる。郵政民営化を巡って解散・総選挙になるとは思っていなかったし、暑い夏の選挙でほんまにしんどかった。そして、まさか民主党が大敗し、わが前原誠司衆議院議員が代表になるとは予想もしていなかった。京都市は、地下鉄料金の値上げと公の施設の指定管理者選定が話題になり、京都議定書の発効や伝統産業活性化推進条例の制定や観光客が4500万人を超えるなど明るい話題もあった。岡田阪神タイガースのセリーグ優勝やパープルサンガのJ1リーグ復帰も明るい話題。

個人的には10月に韓国は慶州で開催された世界歴史都市会議に参加できたことは嬉しい経験。残念だったのは、飯沼二郎先生の逝去。プロレスファンとしては破壊王・橋本真也選手の早すぎた死。わが青春の1ページ喫茶駱駝館時代を描いた砂岸ある著の「駱駝はまだ眠っている」にはほくらしきマスターが登場していた。

2006年（平成18年）

第81代京都市会副議長に就任

5月市会で第81代副議長に就任。議長は巻野渡議員。

京都市職員不祥事、次から次へと逮捕者が出て、悪夢のあきれ果てた1年だった。無念だったのは、ヒューマンふれあいコンサートで一緒だった、不慮の死を遂げられた服務監の永岡正美さんの他界は無念。

振り返れば、この1年、小泉内閣から安倍内閣に変わったことが大きい。わが前原議員の民主党代表のメール問題での思いがけない辞任。小沢新代表の存在感もイマイチ。

またホリエモンや村上ファンドなど、時代の寵児が消えて行った。日本ハムの優勝と新庄選手のパフォーマンスは、清涼剤。

で、ほく自身は、もちろん副議長就任が最大の出来事。あれよあれよと日々が過ぎたが、時代祭で名誉奉行を務めさせていただいたことや、オーストラリアはバララッ

ト市の第10回世界歴史都市会議に参加できたことはうれしかった。また余談だが、新日本プロレスの世界ジュニア選手権試合でリングに上って認定書とベルトを手渡したしたのは至福のときでした。

2007年（平成19年）

奇跡の繰り上げ当選！

4月の選挙。副議長は落選するというジンクスに飲み込まれて、不徳のいたすところ、38票差での次点落選。しかし、幸運にも奇跡の繰り上げ当選。病み上がり気分から、参議院選挙では消えた年金問題などで松井孝治議員と民主党の圧勝、与野党逆転の夏で、元気になった。

また夏には事務所を聖護院から吉田の生まれた育った中大路町に移転。リニューアルしてフリースペース「カルチャーガーデン吉田之森」をオープン。ほんやら洞の甲斐扶佐義の写真展がオープニング。この吉田の地からの再出発。

政治の世界では、安倍首相が突然の辞任で福田政権の誕生。また「大連立」騒動で民主党はどうなるかと心配したが、大山鳴動のみ。

秋には梶本京都市長が4選不出馬選挙を表明、候補者擁立で右往左往。門川大作教育長に白羽の矢。色々であろうが、正月明けから市長選挙モード。全力を尽くすのみ。

2008年（平成20年）

門川大作市長誕生、薄氷の勝利！

アメリカの経済破綻が日本にも及び「未曾有」の経済危機が到来。福田首相の辞任を受けて麻生首相の誕生。阪神タイガース優勝かと期待していたら失速。

京都は、寒い京都市長選挙から始まり、3期12年の梶本市政から951票差での門川大作前教育長の薄氷の勝利。3月市会では代表質疑、4月には経済総務委員会副委員長に就任。門川新市政の肉付予算審議とキューバからチェ・ゲバラの娘、アレイダ・ゲバラさんを招き講演会。6月は加藤登紀子さんのヒューマンふれあいコンサート、7月は経済総務委員会と議員団での他都市調査、8月は市政懇談会と北京オリンピックで朝原選手らリレーチームが銅メダル。9月は公営企業決算の定例会、

後期高齢者医療制度廃止の意見書を民主、共産で可決！10月は地元吉田のまつりで京大時計台前を巡幸。ぼくは剣鋒を差し、神が降臨し甦った。鴨沂高校同窓会も会長として無事に終え、11月は解散・総選挙か？とやきもきする中での議員団の予算要望作成と12月は一般会計決算の審議と定額給付金に関する意見書を可決した定例会市会と、今年一年走り抜けた。

京都市は来年度予算の編成も財源不足で補助金のカットや市民負担が増えそうです。京都にとっても困難な時代になりました。

わが家では、愚息が奇跡的に夢を果たして法曹への道を歩み始めてほっと一息。

2009年（平成21年）

民主党 政権交代！

わが還暦、甦った年。今年は歴史的な政権交代の年であった。もうこれにつきる。

門川市政2年目、「未来まちづくりプラン」による予算編成がされた。同和行政終結後の行政の在り方総点検委員会の報告書も出されたのを機に、この間ぼくが本会議で同和行政について代表質問をした議事録を冊子にした。隣保館であったコミュニティセンターは、職員の引き上げがあり大きく転換した。また保育園連盟の補助金問題やプール制を巡っての特別監査請求も。

5月、メキシコで発生した新型インフルエンザは、日本にも及び空港での検疫など物々しい体制がとられて異様なマスク社会が出現し、修学旅行生など相次ぐキャンセルで、100年に一度といわれる世界同時不況の影響と重なって京都経済も疲弊。わが民主からは安孫子和子さんが副議長に就任。

休む間もなく、麻生政権による緊急経済対策の補正予算を巡って6月臨時市会が50年余ぶりに開会。そして風雲急を告げて、7月麻生総理は錆びた天下の宝刀を抜いて解散総選挙に。

歴史的な第45回衆議院選挙が8月18日に公示。暑い！熱い！夏の選挙だった。なんと民主党は308議席を獲得して政権交代を、前原誠司議員はなんと10万票で圧勝。1区では平、3区泉ケンタ、4区北神圭郎、5区の小原舞さんも比例復活、6区山井議員の全員当選の快挙！いや

はやこの地殻変動には我ながら驚きました。

そして鳩山総理が誕生したのは9月16日。前原国交大臣、山井厚生労働政務官、福山哲郎外務副大臣、松井孝治内閣副官房長官、泉ケンタ内閣府政務官とそれぞれが新政権の重要ポストに就任。「平成維新」「未知との遭遇」が始まったのだ。「事業仕分け」は活気的だったが、12月末には予算編成もなった。政治献金の問題や普天間基地問題など抱えながら、年が明けて本格的な国会での論戦が始まるのだろう。

9月市会では、新政権が発足して、与野党攻守を変え、意見書を巡って自民・公明と民主・共産のつばぜり合いが始まる。今まで考えられなかった複雑な構図になった。

京都市会にも実に大きな変化をもたらしたのだ。

還暦を迎えて剣鋒を差すのも2回目で「扇鋒」を京大正門前などで差して今年も天空から神が降臨した。年末のホームページのウイルス攻撃には多少参ったが、なんとかリニューアルもできた。

またわが青春の反戦喫茶「ほびっと」のことを初代マスター中川六平君が「ほびっとー戦争を止めた喫茶店」を講談社から刊行。出版記念会には鶴見俊輔先生も元気な姿。

さらに、5月にデンマーク大使とエコサイクリングでは市長や知事と一緒に走行。鈴木マサホ市政懇談会を3か月に一回の割合で開催。自治体議員フォーラムなどでも東京には秋に3回行ったか。政権が交代して、民主党の議員として責任重大であることを痛感。

2010年（平成22年）

くらし環境委員会委員長に

政権交代して以降、民主党鳩山政権は、年が明けて政治とカネの問題と普天間基地問題でダッチロール、迷走して民主党への期待を裏切ったが、菅政権が誕生して支持率はV字回復して、参議院選挙に突入したものの消費税発言と政治とカネの問題のボディブローが響いて大敗。ねじれ国会になった。尖閣列島での中国漁船衝突事件が勃発、日中関係が悪化したと思ったら、次に北朝鮮の韓国への砲撃事件、朝鮮半島の緊張が高まる。民主党への支持率は下落する。小沢前代表の政治とカネの問題はいまだ決着が付かず、党内対立が高まるばかり、

ほくは2月予算市会で、京都市財政や食の安心安全のこと、左京区役所の移転問題のことなど代表質問。4月からは京都市会「くらし環境委員会」の委員長になり委員会の進行役。環境政策局の職員の不祥事問題、焼却灰溶融炉でのダイオキシンの検出事件があり、委員会で住友重機工業の役員を参考人招致したこと、地球温暖化対策条例の全面改正や空き缶持ち去り禁止条例の議論や、公明党議員団が提案した自転車安心安全条例の議員同士の審議、また市立浴場の指定管理者を巡る議論や旧隣保館コミュニティセンターが「いきいき活動センター」への転用のことなど印象に残る。

市会としては、2月市会で市立看護短期大学の廃止条例が自民党と共産党の反対で否決されるという異例なことがあり、さらに5月市会に再上程されたが、自民党の半数が反対というこれもまた異例の事態。結局は、自民の半数と民主、公明で可決されたが、前代未聞の光景でした。なお12月市会では新基本計画が議決されました。

ところで毎月一回、日吉神社を皮切りにして、上高野防災会館、吉田自治会館、田中神社、岩倉はグランドプリンス、市原野会館、岡崎は平安の森、松ヶ崎はアピカルインで市政懇談会。多くの友人がビラ撒きを手伝ってくれて、ほく自身もよう歩いた。

「市民パワーで京都の未来を！」と市民による市民のための市政を目指して地域主権の時代、新たな地平を切り拓きたい。

2011年(平成23年)

東日本大震災と原発事故 7期目の当選!

2011年は、わが生涯で、日本にとって、とてつもなく、たいへんな年だった。3・11の東日本大震災と原発事故。2万人を超える犠牲者に対して心より御冥福をお祈りしたい。

そして原発事故で避難している人々や今も仮設住宅に住むなど、そのご苦労にお見舞いを申し上げたい。ほくは、東北地方を2回訪問したが、その惨状を風化させることなく、記憶にとどめなければならないと思う。そして何よりも脱原発依存社会を目指さなければならないと確信している。

ほくにとっては、なんと言っても震災の自粛ムードと

民主党への逆風下であったが、多くの支援者に支えられて5115票を得て7期目の当選。

民主党政権の迷走は腹立たしい。前原議員の献金問題による外務大臣辞任も衝撃だった。どじょうの野田政権に期待したもののスカッとしない。来年は解散総選挙になるのだろう。関西では大阪維新の会が旋風を巻き起こして、政界の台風の子になりそうだ。

個人的には、国民文化祭で第四錦林小学校の児童の子ども剣鉦と一緒にオープニングパレードで御池通を剣鉦をさして巡ってきたこともうれしいことだった。

2012年（平成24年）

門川市長、2期目の当選 歴史都市会議でベトナム フェエ市に

新年早々、市長選挙の始まり。1月22日が告示だった。4年前は民主党の責任者として選挙事務所に詰めていたが、今回は比較的楽だった。4年に一度の寒い時の市長選挙はいやになる。門川市長再選。2月市会、被災地のがれき受け入れ問題で本会議場は傍聴者の野次で騒然。

4月、ベトナムはフェエ市での世界歴史都市会議に参加すべく、佛教大学の学生と安孫子和子、山本恵くんらと市民ツアーで初めてのベトナムを訪問。

ホーチミンからダナン、ホイアン、そしてフェエでの世界歴史都市会議への参加と子どもの家等への訪問、そしてホーチミンでは、ベトナム戦争の博物館など視察。ベトナム戦争から40年か、感慨深かった旅。

5月市会では大飯原発の再稼働や電力不足が話題に。全国市議会議長会から在職25年表彰、議員在職25年記念の夏の市政懇談会を開催。8月末には、京丹後市で京都自治体議員ネットワークの研修会。さらに仙台市での民主党政令指定都市政策協議会の研修会にも参加。帰途、仙台の沿岸部から南相馬市、飯館村を經由福島市まで、レンタカーで視察。忘れてはならない記憶として、ほぼ1年ぶりに被災地の現状と原発事故後の状況を垣間見ました。

吉田今宮社の神幸祭では名誉ある宝剣を持って巡行。秋、韓国の孤児の母、田内千鶴子さん生誕100周年を記念した「世界孤児の日」制定大会に参加すべく、木浦を訪問。京都市のパートナーシティ、晋州市にも市長のメッセージを携えて訪問。市民交流を図る。11月市会では民主党政権の3年余の成果について少し触れて、総合支

援教育や障害者施策について代表質問。

そして市会は休会に入り、総選挙に突入。前原議員は7期目の当選を果たすも民主党は大惨敗。自民圧勝！陽はまた昇るのか！11月市会では、清酒条例が制定。

2013年（平成25年）

台風18号で甚大な被害！安倍政権スタート

京都は9月16日未明の台風18号の大雨で、左京区も銀閣寺前参道など東山山麓の住宅地に土砂が流出。山間部でも道路崩落などの被害も。また嵐山渡月橋や右京区梅津、伏見区小栗栖など浸水、そして地下鉄東西線も不通に。災害は思いがけないところで起こる！

3年余続いた民主党政権に代わりアベノミクスの安倍政権がスタート。民主党は野に下り海江田代表のもとで再生を目指す、京都では、急遽、北神圭朗前衆議院議員を公認候補とし参議院選挙を闘うが、12年守ってきた京都選挙区の議席を明け渡すこと民主党は惨敗。

そして安倍政権は、12月に特定秘密保護法を制定。民主・都みらい議員団として、断固反対の意見書を提出、ぼくが久しぶりに登壇して討論に立つ。この先、「知る権利」がないがしろにされて「監視社会」になることを憂慮。また日中、日韓の関係がますます悪化しそうな気配。

「くらし環境委員会」委員として、再生可能エネルギー、新エネルギー戦略やロームシアター京都会館の再整備、焼却灰溶融炉の契約解除問題などが大きな話題に。「市会改革推進委員会」では、議会基本条例の制定に向けて骨子がまとまり、6月には画期的な議会報告会も開催。来年2月市会で、ようやく京都市会として議会基本条例が制定されることになりました。定数是正や議員報酬問題は年明けの宿題。

左京の話題としては、2月の吉田で大火があり深夜右往左往。新洞小学校が廃校になり錦林小学校への統合、ロームシアター京都会館の着工、二ノ瀬トンネル貫通式。京都・ケルン姉妹都市50周年記念事業で、ドイツ文化センターで第四錦林小学校の児童と剣鋒を差せたのはうれしかったことのひとつです。

朝ドラ「あまちゃん」と「じぇじぇじぇ」。プロ野球では田中将大投手24連勝、東北イーグルス優勝、2020年のオリンピックは東京に決定したが、有頂天になって

いた猪瀬都知事、徳洲会から金をもらって自滅。

そして、反戦喫茶「ほびっと」の初代マスターであった、わが友、中川六平君の死は辛かった。

2014年(平成26年)

くらし環境委員会委員長

2月市会で代表質問に立ち、予算編成、府市二重行政、市民協働発電、障害者リハビリセンターの今後、岡崎地域活性化策など質疑、高野パチンコ店出店、哲学の道宅地開発のことで要望。

4月からは、くらし環境委員会委員長を拝命。環境問題、ゴミ減量、文化芸術、スポーツ振興などが論議され、スポーツ大賞など表彰式などに列席させていただきました。夏には、北海道は札幌や稚内へ委員会視察で、再生可能エネルギーや芸術祭の取り組みなどを視察。市内視察は、動物園や美術館にも。

議員団でも徳島県の上勝町のゴミ分別や高知県佐川町、岐阜県高山での林業活性化の取り組みなどを視察。また3年前から市会改革推進委員会委員として、議会の活性化や市民に開かれた、身近な市会になるように議論を重ねて、通年制の実施や京都市会基本条例を制定、試行的であれ議会報告会を開催できたのは大きな成果です。

鈴木マサホ市政懇談会も何度か開催。高野パチンコ店出店問題については、建築確認が「不適合」ということで、事業者が不服審査を申し立てましたが却下。哲学の道の宅地開発も断念されました。

さて、政治の世界では、4月には、京都府知事選挙が執行され、山田啓二知事が4期目の当選、国では、数の力で暴走する安倍政権が集団的自衛権の強引に閣議決定を行い、年末には、想定外の大義なき解散総選挙。民主党は海江田代表が落選。自公政権が圧勝！

前原誠司議員は8期目の当選！寒い季節の選挙でいささか疲れたあ！

<2015年(平成27年)>

11票差で8期目の当選！

民主党全国地方自治体議員フォーラムの代表世話人に

元旦の午後から京都は猛吹雪。4月、左京区の定数が9から8人で13人の候補者で争われた市会議員選挙。

いちど敗北宣言をしたものの、3825票、11票差で8位に滑り込みセーフ。8期目の当選！ありがとうございました。

民主・都みらい京都市会議員団は13人から7人になるという誠に残念な結果に終わり、また20人が新人議員という大きく世代変り。長老のひとりになりました。民主党は、民主党代表選挙が行われて、海江田万里氏から岡田克也氏に。この1年未だ民主党は浮上できず。なお秋の民主党地方自治体議員フォーラム総会で代表幹事に就任。

5月の市会では、監査委員と教育福祉委員会委員、市会改革推進委員会副委員長に選任されました。監査委員協議会が随時開催されて、決算など議論、また市会改革でも議員同士で議論しながら市民に開かれた市会に一步步前進。

2月市会では、ゴミ減量の取組、岡崎活性化プロジェクトの中間総括と今後の課題、京都会館再整備、ロームシアター京都のオープニングに向けて、琵琶湖疏水通船復活事業について、循環型社会、再生可能エネルギーの促進と今後の見通しや燃料電池自動車、水素エネルギーの普及拡大、高浜原発再稼働と原子力防災質疑して、左京区高野パチンコ店出店計画問題と良好なまちづくりについては要望を。

8期目になって12月の本会議で、門川市政2期8年の総括、評価と課題、市長選挙を控えて「私たちが目指す京都市像」と未来の京都のための課題は何か、岡崎地域とロームシアター京都の今後を第一質問、疏水サミットの開催を要望して、第2質問では、「人権」をキーワードにして、人権擁護委員の役割と行政の連携と人権思想の啓発、ヘイトスピーチ対策、共生社会を目指して障害者差別解消法の取組、犯罪被害者支援について質疑。

他都市調査も色々あったが、連合議員フォーラムで福島県を視察。飯館村、大熊町、双葉町、南相馬市など視察。宮城県気仙沼市を視察。

またこの4年間、人権擁護委員として啓発活動や人権の花運動そして電話相談など、色々経験。今後は人権派議員としてがんばろうと決意をした次第です。

この1年、安倍政権下の一強多弱の国会では、7月から9月にかけて、安保法制の強行採決や労働者派遣法の

ことで、安倍政権の暴走を許すな！と国会周辺や各地で市民が怒りの声を挙げました。ほくも集会やデモにも参加。戦後70年にして、平和な日本があらぬ方向に向かいそうな節目の年になるのかと憂慮する年でもありました。

活動としては、経糸の会「ヒューマンふれあいコンサート」や「吉田東通の夜市」、ダウン症の子どもたちを応援するバディウォークなどを応援。そしてわが地元の吉田神社神幸祭では今年も剣鉾を差すことができました。

5月に圧迫骨折で入院した96歳になる父は回復したものの夏には肺炎で緊急入院。なんとか年は越したが覚悟する。鶴見俊輔さんや吉川勇一さんが逝去。

左京区では、二ノ瀬トンネルの竣工、この間再整備が進められてきた動物園がグランドオープンし京都会館ロームシアター竣工式、岡崎平安神宮前の歩道化と公園整備。そして琵琶湖疏水の天津から蹴上までの通船の試行実施など嬉しいことでありました。また10月には吉田山南参道での毒キノコ火焰茸騒動も思い出に残る事件。

また秋には、真下仁志とともに「未来の京都 公共政策社会問題研究会」を立ちあげて1期目として学生との討論を行い、一冊の冊子にまとめたのを16年春に発行。

2016年 平成28年

「手話条例」を制定！民主党から民進党に

1月父正武を送る。享年98歳。

1月末から京都市長選挙が始まり、門川市長、相手候補に大差をつけて圧勝！3期目の当選！2月中旬、カミサンと奄美大島に。とりわけ与論島では、町長さんらに歓待していただきました。2月市会で、ほくもプロジェクトチームの一員として議論してきた「手話言語がつなぐ心豊かな共生社会を目指す条例」が議員提案で制定。

民主党は民進党として再出発。そして3区の自民党議員が不倫騒動で辞職。補欠選挙になり泉ケンタ議員が立候補。結果は、おおさか維新の会の候補者に圧勝して、繰り上げ当選で北神圭郎元衆議院議員も返り咲き。

東京で民進党の地方自治体議員フォーラムの総会と研修会が開催。内海宮城県議が勇退されたので、ほくが代表に就任。全国1600人の自治体議員の代表になったのです。

7月の参議院選挙。福山哲郎議員の4期目の当選。民

進党への風が吹かないの中、唯一近畿で議席を確保！

8月は、教育福祉委員会で札幌、函館、仙台を他都市調査。仙台で一行と別れて女川町、石巻などを訪問。震災後の復興を視察。

8月岡田代表の辞任を受けて、民進党の代表選挙、蓮舫議員が出馬を表明する中で、前原誠司議員が立候補、蓮舫候補の二重国籍問題が浮上したものの、前原候補は敗北。

11月、「省エネルギーと再生可能エネルギーによる持続可能な地域社会の実現を」をテーマにデンマークに海外行政視察。首都コペンハーゲンやオーフス市、サムソ島やロラン島を訪問。先進的な取り組みを学び実に有意義でした。

11月市会では、デンマーク視察の成果を披露して今期2度目の代表質問。加えて、議員団の予算要望づくりもありもう四苦八苦。

秋から民進党蓮舫代表になって、地方自治体議員フォーラムの代表として本部常任幹事会の常任幹事に。さらに自治体議員局の会議もあり、11月から市会の公務がない時は、隔週で会議が開かれるので、月に2回ほど東京日帰り。ハードになりました。地方自治体議員の声を本部に届けるべく、責任重大です。なおく未来の京都 公共政策社会問題研究会は2期目として「団塊の世代と地域力」をテーマに研究会を開催。

相模原の障害者施設への襲撃事件、あってはならないこと。広島カープの25年ぶりの優勝、リオ・オリンピックの様々なシーン。オバマ大統領のヒロシマ訪問。そしてアメリカ、トランプ大統領に。さてこれからアメリカの民主主義はどうなるのか、世界はどうなるのか、憂慮する。

世界文化自由都市、京都。

このまちが市民自治の舞台となり

緑豊かな山々に囲まれたまち

創造的な市民文化がはぐくまれるまち

子ども女性もハンディキャップを持つ人も

外国籍市民もお年寄りも若者も

ひとりひとりがのびのびと

市民が仲良く暮らせるまち そんな京都をつくろう！

市民派の初心を忘れることなく、

21世紀の京都市政を切り拓く政策の提言と実現をめざし、

市民と共に歩む市民派市会議員として、

さらなる明日に向かって奮闘します。

これからの政策目標

- 開かれた議会を一京都市会のさらなる改革を
- 市民参加で開かれた市政を一自治体の主役は市民一市民参加推進条例の制定と行政評価システムの導入を
- 市民自治と人権一市民が仲良く暮らせるまちを一
- 地方主権の推進一地方政府の時代
地方財政危機の克服のため税の見直しや行財政改革を
- 環境先進都市を一 Think Globally, Act locally –
緑豊かな街づくりと自然との共生、地域リサイクル社会を
- 福祉とバリアフリーのまちづくり
住み慣れた街で高齢者が安心して暮らせるまちを
- 介護保険の充実、医療・保健・福祉のネットワークを
- NPO・市民運動が活発なまち一市民パワーを市政に一
- 子育て支援・教育環境の充実を
子供たちや女性や若者がのびのびできるまちを
- 地域経済の活性化一街に活力を一
雇用拡大や起業家支援、商店街の活性化を
- 地域コミュニティの活性化とボランティアの支援を
- 市民文化を創造する文化首都を
芸術活動が盛んで、市民スポーツを楽しめるまちを
- 公共交通の充実と自転車で走れるまちを
- 地震や災害から市民を守る防災のまちを
- 国際文化観光都市・京都、観光政策の充実を
- 自然と文化と学問のまち、左京区を住みよいまちに

◇◇ 編集後記 ◇◇

30年前、携帯電話はなかった。もちろん代表質問を書くのも手書きだった。ワープロからパソコンがようやく普及し始めた頃かな。インターネットももちろんなかった。あれから時代は急速に変わった。市会の委員会の模様もネットで見れるようになった。アナログ人間のぼくにとってついていくのは至難のことだったが、かろうじてなんとか、スマホもそれなりに使えるようになった。技術革新は進んでいるが、しかし、問題は人と人と出会いが大事だ。そのことを忘れないでいたい。

多くの人に支えられてここまで来れました。感謝です。

この小さな冊子は、平成の時代の京都を駆け抜けてきた一市会議員のささやかな回顧録のメモとして、在職30年を機会にまとめた。

2000年から日々書き続けている「ひとくち日記」の打ち出しをしてもらったら、膨大な量になった。いつかは紙媒体として印刷したいと思っている。

さて、来年、ぼくは数え歳で、「古希」を迎えるが、歯医者に通うのは仕方がないとして、病院に行ったことはない。血圧も正常。酒も美味しい。体力もある。気力もある。元気である。これからも生涯現役！未来の京都のためにもうひとふんばりしますよ。

発行日 2017年9月
編集・発行人 鈴木正穂

鈴木マサホ事務所

〒606-8313 京都市左京区吉田中大路町17-1
電話 075-761-5537
FAX 075-761-5591
メール suzuki@masaho.com

印刷 福祉工房P&P



選挙